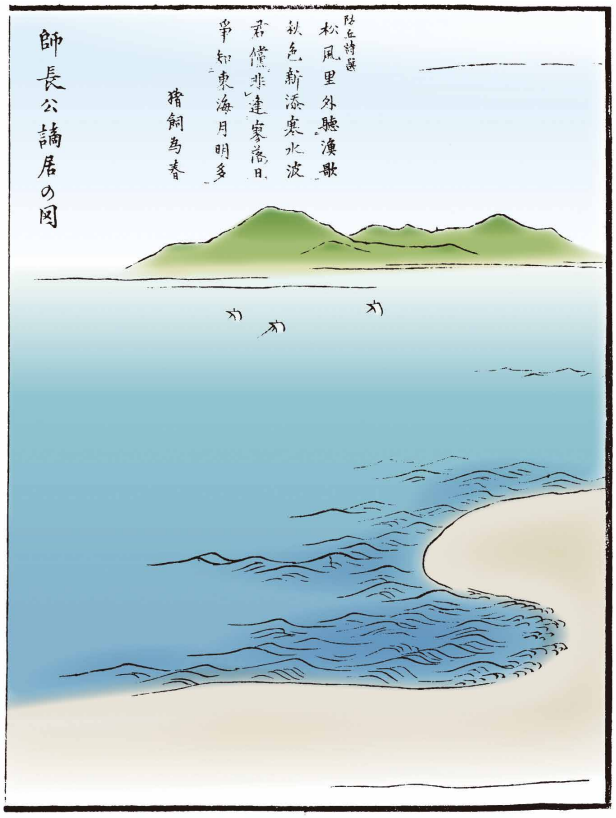
なごやのまち 今昔

尾張名所図会 師長公謫居の図

瑞穂区土市町

きょうを偲び、琵琶の妙なる音が響く地



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に描かれた尾張国井戸田荘(瑞穂区土市町付近)に流罪となった藤原師長の様子です。

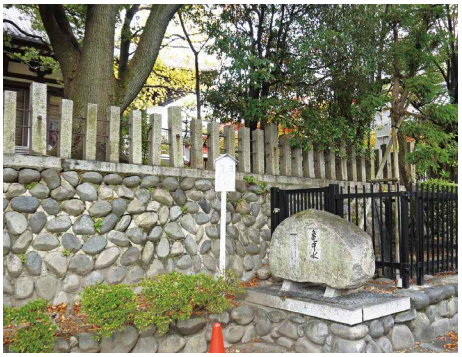
藤原師長(1138～1192年)は平安時代末期の人物で、平清盛が起こした治承三年の政変（1179年）により失脚し、現在の嶋川稲荷付近に謫居することになりました。

当時は、この辺りまで海であったのでしょう、さざ波が立ち、遠くには船が浮かんでいます。

また師長の傍らには琵琶が置かれていますが、師長は平安時代を代表する奏者であり、熱田神宮で琵琶を演奏したところ社殿が揺れたという逸話が残っています（平家物語　巻第三）。

師長にちなんだ地名は瑞穂区に多く、師長が琵琶を弾いていたといわれる師長町、師長の法名（妙音院）からつけられた妙音通、嶋川稲荷の南にある橋は師長小橋。名古屋北西部にある枇杷島という地名は、帰京する師長に悲嘆にくれた娘が、琵琶とともに入水したからだともいわれています（諸説あり）。嶋川稲荷から北へ200mほどのところにある龍泉寺は師長が出家した場所で、山門脇にある亀井水は、源頼朝の産湯に使用されたともいわれています（諸説あり）。

「妙音通3」交差点南にある嶋川稲荷の境内に「藤原師長謫居址」の碑がある。稲荷社と碑は区画整理等により現在地に各々移転



「妙音通3」交差点から北約 200m にある龍泉寺は師長が出家した寺院。右手手前は亀井水

〈関連資料〉※（　）内は、まちづくりライブラリーの請求記号
「瑞穂区誌区制施行50周年記念」名古屋市瑞穂区役所／編　名古屋市（2B21-94）
「瑞穂区の歴史」愛知県郷土誌資料刊行会／著（Sc-キ）
「なごやの鎌倉街道をさがす」池田誠一／著　風媒社（Se-イ）